高松第一高等学校合唱部

第40回 定期演奏会

2016年8月15日(月)

18:00開場／18:30開演

サンポートホール高松
(3F)大ホール

主催／高松第一高等学校合唱部
後援／桜紫会（高松一高同窓会）、香川県合唱連盟

■ごあいさつ

高松第一高等学校長　**中　條　敏　雄**

本日はお忙しい中、高松第一高等学校合唱部「第40回定期演奏会」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃より合唱部の活動に、ご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。皆さまのご支援のおかげで、この演奏会も今回大きな節目を迎えることができました。これからも、先輩が築いてきた歴史を、さらに発展させるべく、部員、顧問ともども頑張ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、人類が生み出した財産の中で「音楽」は国や言語を越えて共有できるものの一つです。残念ながら、地球上には紛争が絶えず、怒りの連鎖を止めることが容易ではありません。また、様々な天災や事故などにより絶望の淵に追い込まれる人々もいます。しかし、それらの怒りに勝ち、悲しみを癒やして、人々を救えるのも「音楽」ではないでしょうか。たとえば、悲しみの中、天上から降り注ぐ女神ミューズの息吹の如き歌声に、現実の酷さを忘れ、明日への活力、希望を見出すこともできます。そのような力を持てる音楽を目指して部員たちは精進を重ねてまいりました。

いよいよ音楽会の幕開きです。合唱部員の歌声が創り出す素晴らしいハーモニー、この会場を満たす美しい響きに、しばし身を委ねて、心ゆくまでお楽しみいただければと存じます。

高松第一高等学校合唱部　**顧　問　一　同**

本日はお忙しい中、ご来場賜りましてどうもありがとうございます。

われらが合唱部は、今年40回目の定期演奏会を迎えることができましたが、その歴史は決して平たんなものではありませんでした。かつては100人を超える部員数を誇った大所帯も、今では40名超の中規模合唱団となりましたが、それでも何とか混声合唱の伝統を守り続けています。これまで慢性的な男子部員の不足で、混声合唱の形態を維持できる限界点を行き来するピンチに幾度となく立たされながらも、部員たちの「混声合唱をやりたい」「全員で歌いたい」という強い気持ちでそれを乗り越え、混声合唱団として今日を迎えることができたことをうれしく思います。

「日本一の出たがり合唱団」を自認する私たちですが、この夏は全国高校総合文化祭広島大会に出場、同日NHK全国学校音楽コンクール県大会にも出場するなど、厳しいスケジュールをものともせず元気に活動しています。

一高合唱部は規律がゆるく、先輩後輩のあいだも友達同士のようにフランクですが、誰に強制されるでもなく自然に芽生える部を愛する心、合唱を愛する心、お互いの信頼関係こそが部を動かす原動力です。この力がある限り、一高合唱部の伝統はこれからも守り、受け継がれていくことでしょう。

今宵の演奏会は、40回記念ということで、OBとの合同演奏のステージを２つにし、演奏内容の充実を図りました。現役・OBがひとつになって繰り広げる、熱い思いに溢れたステージをお楽しみいただければ幸いです。

最後になりましたが、この演奏会開催に際し寄付等でご支援いただいたOBの方々をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

合唱部部長　**野　口　七　海**
定演委員長　**長　尾　紗　和**

本日はお忙しい中、高松第一高等学校合唱部定期演奏会にお越しくださり、ありがとうございます。

今年度は記念すべき第40回ということで、定演委員会を中心としてCMIらしい定期演奏会を創ろうと、より協力し助け合いながら準備・企画を進めてまいりました。

本格的な合唱曲からポピュラーソングはもちろん、今年度は現役・OB合同演奏も２部で構成しております。CMIの歴史も感じていただけると幸いです。全ての演奏を聴き終わった後、聴いて下さる方の心に何か残せるものがあればとても嬉しく思います。

最後になりましたが、日頃よりご支援やご協力を頂いております、多くの方々に深く感謝申し上げます。

Program

Opening

高松第一高等学校校歌　　堀沢　周安　作詞　　船橋　栄吉　作曲
狩人アレン　　中村　仁策　作詞　　伝パーセル　作曲

■ Ⅰ部 ■　今年度コンクール曲より

【男声合唱】

全日本合唱コンクール課題曲
鷗　　三好　達治　作詩　　木下　牧子　作曲

男声合唱組曲「終わりのない歌」から
Ⅱ　月の夜　　Ⅲ　強い感情が僕を襲った　　銀色　夏生　作詩　　上田　真樹　作曲

【女声合唱】

全日本合唱コンクール課題曲
木のように（「悲しみの意味」から）　　星野　富弘　作詩　　なかにしあかね　作曲

児童（女声）合唱のためのコンポジション第12番「はるかなあしたから」から
Ⅴ　光の章　　間宮　芳生　作詩・作曲

【混声合唱】

NHK全国学校音楽コンクール課題曲
次元　　朝井リョウ　作詩　　三宅　悠太　作曲

混声合唱とピアノのための組曲「天使のいる構図」から
Ⅴ　Finale　　谷川俊太郎　作詩　　松本　望　作曲

全日本合唱コンクール課題曲
むらさきの（「Little by little」から）　　吉行　理恵　作詩　　池辺晋一郎　作曲

混声合唱とピアノ連弾のための
原体剣舞連　　宮沢　賢治　作詩　　木下　牧子　作曲

指揮：大 山　晃　　ピアノ：中川　美加・波 多　翼

■ Ⅱ部 ■　現役・OB合同演奏　混声合唱組曲「永久ニ」　　鈴木　憲夫　作詩･作曲

1．永久ニ　　2．星の降る丘　　3．宇宙のもと

指揮：大 山　晃　　ピアノ：秋山由加理・大山まゆみ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　休　憩　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■ Ⅲ部 ■　CMIセレクション　アイドルソングよ永遠に（編曲：大山　晃）

season　　youth case　作詞・作曲
セーラー服と機関銃　　来生えつこ　作詞　　来生たかお　作曲
アイドル対決！明菜VS聖子（メドレー）　　松本　隆　ほか　作詞　　細野　晴臣　ほか　作曲
LOVEマシーン　　つんく　作詞・作曲

指揮：野口　七海　　ピアノ：山本　桃香・太田　英里

■ Ⅳ部 ■　現役・OB合同演奏　合唱組曲「銀河鉄道999」

橋本　淳、浦川しのぶ、七海　晃一、山浦　弘晴　原作詞
平尾　昌晃、青木　望　原作曲
冬木　透　編曲

1．出発　　2．出会い　　3．回想　　4．未来

ソプラノ：谷　さおり　　指揮：大 山　晃　　ピアノ：岡橋　直樹

■パート紹介

Soprano

皆さん、こんばんワニ!!いつもやかましいソプラノパートです。今年はな、、なんと21人で活動しています！この21人の生態系を紹介したいと思います。

まずは過疎化（KSK）三年生から。チョロイ天然、花音！吉川紗良と書いて強いと読む、さら！たまにでるきもさ（笑）野口！彼女に聞いてみよう！なつこ

次はかわいいおっさん、略してかわっさん二年生。実はいける口わかこ！「え～ほんとへ～ん（笑）」田村！笑神様、さわ！文系アシメつな！おっさん美少女あきの！笑い方…（ウケ）かこ！

最後にJKになりたい（JKN）一年生。ちゃんとJKあやや！Sopの癒し系ムック！アリサインワンダーランド、リズ！先駆者やよい！ヒップタッチャーめめ！ビューティーサロン、ミルキー！X〇X〇ポエマーぽっさん！未確認生命物体りこ！草食動物りぃ！ヒップターゲットゆきち！京都どすえ、ちょんまめ！

今夜は私たちの高音ボイスで皆さんのハートを強奪させていただきます♡

Tenor

テノールは合わせて六人のユカイな仲間たちです♪
部内では腰の低いペコールとしての位置を確立しています！でも他パートの迷惑にならぬよう日々練習に取り組んでいます!!
ではメンバー紹介！

三年生はトップのさの、見てくれだけの役立たずですが精一杯がんばります。（Mitchell Love!!）

二年生は４人！トップテナーのみやぢ、オペラ歌手のような彼の声はアナター!!の心に響くはず!!　同じくトップのみやがわ、電子辞書で策を立ててがんばります！
そしてセカンドのよこい、CMIの司令塔でたのもしー！実生活も充実しており、とある日本史の先生を愛しています！　同じくセカンドのフジイ、彼はすごい！すごすぎる！とにかく注目してください！

一年生はみやい、穏健そうな彼ですが、つよいです！テナーの陰の指導者としてガンバリます!!

以上のメンバーで微力ながら、ハーモニーを奏でます♪

Alto

皆さん、こんばんは!!
変人ホーム“アルト”の韓流ならどんと来い、管理人のパートリーダー橋本（おーしゃん）です！

まず入居３年目の３年棟から紹介します(^－^)
３年棟一変人と神木オタクの副パートリーダーのパーシー（横山)、最近変人BIGBANG！みかん（吉田）

次に２年棟です。２年棟の支配者なで子（上原)、NEWSへの愛がイタイです笑

最後に入居半年とちょっとの１年棟の紹介です！
予備軍第１位、ファージ（古市）←ジャニーズ好きです。ファージと同じジャニオタ、しの!!（十河）K-POP好きキヨミ♡、誰にでも常に上から目線（笑）チャイ（山岡)、変顔GENIUSティーナ（四宮)、セカオワ大好き♡キャス、アニメ理系女子パイン（吉田)、アルトの小人ベリー（安田)、１年棟のオアシス小梅“師匠”（山本）

そんな変人揃いのアルトですが、今日は持ち前の安定感のある声でソプラノを支えます!(^^)!アルトの声も聴こえてくると思うので耳を傾けて聞いてください。

Bass

当パートは、世にも珍しい低音料理を扱っております。

～おしながき～

３年　よしつねの冷製イカスミスパゲティ（心は冷え冷え、おなかは真っ黒。いのりんLOVEです。）

２年　りんりんの乙女サラダSサイズ（女子力が高いくせに、女子にモテない。可哀想なドSパンダです。）
はっせーの梨（無）のタルト（何も感じない何も考えない。そんな悲しいヤツです。）

１年　ヤマトの１年もの鉄分ワイン（血の気の少ない初々しい新型兵器です。）

なお、今宵は全ての料理をご堪能いただけます。

■曲目解説

Ⅰ部　今年度コンクール曲より

鷗

日本中の合唱人によって広く愛唱されている木下牧子の名曲「鷗」の男声版。高松一高では卒業式でもこの「鷗」を祝賀演奏として混声合唱で歌っている。

『終わりのない歌』から「月の夜」「強い感情が僕を襲った」

2011年に早稲田大学グリークラブのために作曲された５曲からなる組曲の第２曲、第３曲。銀色夏生によるロマンチックな恋の歌だが、初演時には100名超の大学生がこれを歌ったそうである。なんとも壮観というか、何というか…

木のように

シンプルだが味わい深い小品である。グレゴリオ聖歌を思わせる歌い出しから一転して主部は洒落たワルツ調、と曲調を次々と変化させながら最後は余韻を残しながら曲を閉じる。

『はるかなあしたから』から「光の章」

間宮芳生のライフワークともいえる作品群「合唱のためのコンポジション」第12番の終楽章で、もともとは児童合唱と弦楽合奏のために書かれたものを作曲者自身がピアノ連弾の形に書き改めたものである。その際に冒頭の無伴奏部分が追加作曲された。全５曲からなるこの作品は、作曲者自身によると無宗教でありながら宗教的なミサ曲として作曲したということである。

次元

「力」をテーマに創られた、気鋭の若手二人による新しいスタイルの課題曲である。作詩者は“あらゆる営みの起点となる力を吹き込みたい”と願ってこの詩を書いたということである。

『天使のいる構図』から「Finale」

谷川俊太郎の詩画集「クレーの天使」をテキストとする2009年に作曲された男声合唱組曲をもとにした混声版の終曲。「鈴をつけた天使」と「天使、まだ手探りしている」という２つの詩を中心に２部分で構成されており、『人間の心の中の天使』をテーマにしている。

むらさきの

心の中のふるさとを慎ましく、憧れをもって歌いあげる無伴奏の小品。もともとは東京混声合唱団の定期演奏会のアンコールのために作曲された作品のなかのひとつである。

原体剣舞連

大阪コレギウム・ムジクムの委嘱によって作曲された、混声合唱とオーケストラのための作品の作曲者自身によるピアノ連弾版である。演奏時間が９分を越える力強い骨太の作品だが、コンクールで演奏するためのカットを、この定期演奏会で全曲演奏することを条件に作曲者に認めていただいた。詩は鬼剣舞を描いた宮沢賢治の有名な長編詩だが、活力あふれるダイナミックな部分とミステリアスな部分が交互に出現しながらクライマックスに向かって盛り上がっていく構成力が素晴らしい作品である。

（大山　晃）

Ⅱ部　混声合唱組曲「永久二」

縄文をテーマにした混声合唱曲『祈祷天頌』の続編として着想され、３年の年月を経て2001年６月に全曲が完成。作曲者には、古代に想いを馳せ、初原的な作品を想い描くことへの強い憧憬が根底にあり、「縄文そのもの」を描くのではなく、古代への憧れや古代から現代までの時の流れを包括した、自然、宇宙、生命といった普遍的なものへの賛歌となっている。

初演以来多くの合唱団に取り上げられており、一高合唱部でも2004年には作曲者を招いて指導を受け、第28回定期演奏会で当時初の高校生による全曲演奏を行っている。その後第34回定演で2004年に演奏したメンバーを中心に40余名のOBが加わって演奏し、今回が通算３回目の全曲演奏である。

第１曲は日本書紀から言葉を採ったエネルギッシュな音楽。絶え間ないピアノの16分音符の動きが特徴的である。第

２曲は一転して母と子の目をとおして綴られる静かな祈りの音楽。中間部では時の流れの中で普遍的なものについて激しく問いかける。第３曲は自然、宇宙、生命への賛歌であり、最後に第１曲の音楽が回想されて力強く全曲を閉じる。

（大山　晃）

【客　演】

ピアノ　秋山由加理

高松第一高等学校音楽科を経て武蔵野音楽大学器楽学科卒業。現在、香川短期大学、香川県立坂出高等学校音楽科各非常勤講師。「永久ニ」男声合唱版初演ピアニスト。

ピアノ　大山まゆみ

愛媛県出身。東京学芸大学教育学部D類音楽科を経て、同大学院修了。現在、香川短期大学、香川県立盲学校各非常勤講師。「永久ニ」男声合唱版初演ピアニスト。

Ⅲ部　CMIセレクション・アイドルソングよ永遠に

season（2009）

CMにも起用されていた嵐の名曲の１つです。爽やかで、でもどこか切ないメロディーが心にしみる一曲です。

セーラー服と機関銃（1981）

大ヒット作品である同名の映画の主題歌です。歌っていたのは今もドラマで活躍中の薬師丸ひろ子。美しいハーモニーとともに懐かしさも感じながらお聴きください。

アイドル対決！明菜VS聖子（1981～1985）

昭和の２大アイドル、中森明菜と松田聖子の名曲を惜しげもなくぶち込んだCMI史上最大の盛りだくさんのメドレーです。登場するのは「天使のウインク」「セカンド・ラブ」「渚のバルコニー」「夏の扉」「北ウイング」「天国のキス」「ガラスの林檎」「ミ・アモーレ」の８曲。あなたのお好みはどちらですか?

LOVEマシーン（1999）

モーニング娘。を代表する誰もが知る一曲です。アップテンポで楽しめること間違いなし！ぜひ皆さんも一緒に盛り上がりましょう☆

（野口七海）

Ⅳ部　合唱組曲「銀河鉄道999」

「銀河鉄道999」は漫画家・松本零士の代表作として知られる人気マンガだが、1970年代後半の松本零士ブームに乗ってテレビアニメ化され、のちに映画化され、いずれも大ヒットした。現在も松本零士のアニメは人気が高く、最近でも「宇宙戦艦ヤマト」や「キャプテン･ハーロック」の新作が作られる中、次は「999」、と期待が高まっている。

この合唱組曲は、その中のテレビ版の主題歌･挿入歌・BGMをもとに「ウルトラセブン」で知られる作曲家・冬木透が再構成したものである。

物語では999号に乗って機械化母星を目指す主人公・星野哲郎の成長を通して、青春の情熱やひたむきさ、謎の女性メーテルへの淡い恋心、さらには限りある時間を精一杯生きることの尊さなどが描かれるが、少年時代にリアルタイムで見ていた世代にとって、これらの歌は懐かしさを通り越して胸に迫るものがある。

たかがアニメソングと言うなかれ。これは悲しくも切ない「生への賛歌」である。

わが合唱部では「999」映画化30周年にあたる2009年、第33回定期演奏会で取り上げて以来、８年ぶりの演奏となる。

（大山　晃）

■ 高松一高　音楽部・合唱部の軌跡

64年の歴史を持つ合唱部。それぞれの時代に、どんな出来事があったのか？
関係者の証言をもとに、その喜びと涙を振り返る。

創部　そして　草創期　（1952～1961）

高松一高 旧校舎（昭和30年代）

創部の1952年（昭和27年）は、NHKコンクールの高校部門新設の年だった。それに合わせるように、小ホールを備えた音楽室が完成している。草創期の主な活動は、Nコン参加と文化祭での発表だったようだ。
顧問は、戦前から勤務するベテラン山崎正七教諭。部員の自主的な練習が中心で、先生が指導するのは、コンクール前の一週間程だったと言う。この頃は、音楽コースも設置されていなかったが、1955年（昭和30年）に、Nコン県１位になるなど、存在感を示していた。

奇跡！高校生の指揮で　NHK県大会１位（1960）

1960年（昭和35年）Nコン県大会で小さな奇跡が起きる。男子部員の指揮で、県１位となったのだ。部員だけの練習で仕上がった曲が、大会直前に顧問の指揮に変わることは、良くないと感じたのが部長の福江敏行さん（61年卒）だ。大会前「部員の指揮で、コンクールに臨みたい」と、先生に伝えたのだ。
指揮は、ピアノが得意だった北原詔二さん（61年卒）。直近の２年間は県大会で入賞さえ果たせておらず、この年、部員たちは、歓喜の涙を流した。

当時の３年生部員

麦秋会で思い出の歌を
（中央が福江さん）

今も続く　麦秋の絆

その年のメンバーは、演奏曲にちなみ「麦秋会」を結成、OB会活動を続けた。長期間、交流は途絶えたが、十数年前から、親睦会を定期的に開いて青春時代に帰っているそうだ。
「１位になった喜びで、今も、みんながつながっているんですよ」麦秋会会長の福江さんは、昨日のことのように思い出を、熱く、語ってくれた。高校時代を歌にかけるクラブ気質は、この頃から、脈々と続いているのだ。
麦秋会からは、1977年（昭和52年）全国二冠達成時に、記念品として譜面台が寄贈されている。

木村教諭赴任　新時代スタート（1962～1969）

NHKコンクール県大会（昭和44年）

1962年（昭和37年）善通寺一から木村明昭教諭が赴任し、顧問となった。赴任の翌年ごろから、全日本コンクールへの参加も始まっている。当時、坂出・高松・丸亀・高松南などが、レベルの高い演奏をしていたと言う。
この期間は、ベビーブーム世代が入学し、生徒数が１学年1000人をこえた年もあった。「僕の話が面白いから、部に入ってくれる男子もいたし、部員は自然に集まってたような気がするな」と木村元教諭。
NHKコンクールでは、1964年（昭和39年）県１位になる実力校ではあったが、全国を目指そうと言う強い機運は、まだ、漂っていなかった。
後に、木村教諭と共に顧問を務める竹内肇教諭は、当時、坂出の指導者。全日本四国代表として、全国大会に５年連続で出場していたが、上位に食い込むことができず、秘かに日本一を目指していた。

木村・竹内教諭　２人指導体制が始動（1970～1974）

目指せ！全国大会　竹内教諭赴任

竹内教諭赴任時の３年生部員

音楽部練習場での竹内教諭

1970年（昭和45年）竹内教諭が、一高に赴任した。坂出から県教委に異動。４年間勤務の後、現場復帰を希望したのだ。音楽コース充実を図るためだったが、合唱指導には、特別の思いがあった。自ら育てた坂出は、県教委勤務時、全日本コンクールで日本一となり、全国トップクラスの女声合唱に成長していた。
古巣がライバルとなる現実の中、元の勤務校を混声で破り、「全国大会へ行く！」「日本一を目指す！」ことを、心に秘めていた。
赴任当時は、３年生が数人で、全体でも20～30人の部員だったが、この後、わずか１年で、大きくクラブの雰囲気は、変わっていった。
「中学校の巡回指導で、熱心に教えてくれた先生がやって来たので、何か新しいことが始まる期待はありました」と、２年生のソプラノだった山下（旧姓久保）敬子さん（72年卒）。山下さんは、紫雲中が1968年（昭和43年）、Nコンで日本一になった時のメンバーだ。合唱に熱い思いを抱いていた部員は、力強くひっぱって行く指導に、たのもしさを感じていたようだ。

男子部員を勧誘　一気に大型合唱団に

全国を目指す竹内教諭は、音楽の授業で、クラブに参加していない男子を見つけると、強引に練習に参加させる勧誘もあり、音楽部は、姿

を大きく変えていった。こじんまりした音楽部は、わずか１年で大型の混声合唱になった。指導者が２人になったが、自然に分担が決まり木村教諭がNコンを、竹内教諭が全日本の指揮をするようになったそうだ。
1972年（昭和47年）、８年ぶりにNHKコンクール県大会１位を獲得する。全日本でも、四国大会で金賞を取るまでになった。だが、愛媛勢・坂出の壁は厚く、いずれのコンクールでも、全国大会には届かなかった。
２人指導体制の１年目に入学した南忠邦さん（73年卒）は「坂出とのライバル関係は強くて、NHKで県１位になった時、坂出の部員が大声で泣いたりしてね」副部長の大橋（旧姓池田）玲子さん（73年卒）は、「自分たちで、実績や伝統を作ろうと思って必死でした」と語る。
大橋さんが３年生の時には、野球部が夏の甲子園に出場し、ベスト８まで勝ち進んだ。「甲子園に何度も応援に行ったことと、合唱が高校生活のすべてでしたね」と、明るく話してくれた。

一気に大型混声合唱団に（昭和46年）

南部長時代のメンバーが再会
（平成７年）

NHKコンクール県大会１位（昭和47年）

全国二冠への　助走の時代　（1975～1977）
NHKコンクール全国大会　初出場

一高音楽部が、初めて全国大会に出場したのは、1975年（昭和50年）のNHKコンクール。当時は、県大会の演奏の録音を、四国・全国で審査する方式だった。人数を絞った合唱では、確実に高レベルの演奏ができるようになっていた。Nコン県大会では1974年から４年連続で、１位を獲得している。この年は音楽コース・普通科とも、３年生の数が揃った年で、一つ大きな壁を越えた。しかし、フルメンバーで挑んだ全日本では、なれない早朝ランニングをして、本番前に集中できない部員も出て、全国には届かなかった。

NHK全国初出場メンバー（昭和50年）

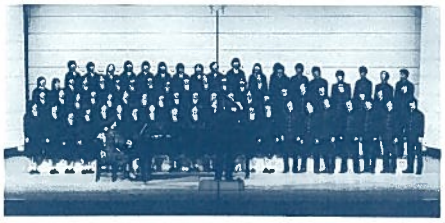
南九州演奏旅行の男子部員

テノールの主力だった大西聡さん（76年卒）は、「医学部志望だったけれど、自分が３年生の最後までクラブをやり切ることで、全国を目指す気持ちを伝えたかったのかな」と、昔を思い出してくれた。
この年から、南九州の演奏旅行が始まり、様々なイベントにも参加するようになっていった。コンクールでの結果は目指すが、それだけに縛られないクラブののびやかな雰囲気は、多彩な活動を大切にするところから、生まれてきたのかもしれない。

サマーコンサート開催　音楽部讃歌初演

1976年（昭和51年）は、定期演奏会の前身となるサマーコンサートをOBと共催した。「一高音楽部讃歌」は、この時が初演。３年男子は部長とアメリカ留学から帰った、１学年上の先輩の２人だけ。３年女子も少なかったが、今につながる活動の礎をつくれた年だった。意欲のある２年生が多く、しっかりと運営、演奏を支えたからだ。
Nコンは県大会で１位となったが、四国審査では、この年に日本一となる松山東に全国出場を阻まれた。全日本四国大会では、松山東が３位となる激戦。オール金賞で坂出と並んだが、審査員投票の末、僅差で代表権はつかめず、涙をのんだ。
「全国大会に行きたくて、練習時間を延ばしました。発表の後、トイレで泣き、涙がいっぱい便器に落ちました」と、部長の石原正裕さん（77年卒）。
この時期、四国地区は演奏レベルが非常に高く、Nコンは、この年から３年連続で代表が日本一となっていた。全日本も必ず代表が、金賞を獲得する状況だった。地区大会で獲得する、たった１枚の全国切符は、とても価値が高かったのだ。

サマーコンサート


全日本四国大会で惜敗（昭和51年）

第一回定期演奏会開催　総合文化祭　初参加

２年の時に、様々な経験をした３年部員は、翌1977年（昭和52年）第一回の定期演奏会を成功させた。定演を始めるにあたって、３年生は「定演を主軸にした活動にするのか、コンクールに力を注ぐのか」の話し合いをしていたようだ。
結論は、OBを加えたステージを組んで、コンクール用の練習時間も多く確保する運営方法だった。これを受けて定演では、顧問やボイストレーナーの独唱も入った合唱も組まれ、内容的にも充実した演奏会となった。
第一回全国総合文化祭も開かれ、千葉県に遠征、初参加している。充実した、活動が続く中、この後、高校合唱界の頂点に立つことは、誰も考えていなかった。ただ、多くの３年生が、前年の雪辱を目指して、部活動を続けていた。

第１回定期演奏会（昭和52年）

第１回総合文化祭に参加（千葉）

全国二冠！高校合唱界の頂点に（1977）
NHKコンクールで　日本一の栄冠

NHKホールでの表彰式

記念演奏会での合同合唱

1977年（昭和52年）当時、地区代表の録音音源で審査されていたNHKコンクールの結果は、テレビの全国放送で発表された。美しいハーモニーとはつらつとした歌声が、高く評価され、まとまった演奏をした、名古屋市立北高校に競り勝ったのだ。

NHK優勝旗

「日本一は予想していなかったので、胸がドキドキして、体が熱くなりました」と部長の樫村誠さん（78年卒）は、新聞取材に答えている。課題曲は「みえない木」自由曲は「コタンの歌より　イユタ・ウポポ」だった。
11月に最優秀校の発表会が、東京のNHKホールであり、満員の聴衆を前に、記念演奏がおこなわれ、テレビで全国放送された。指揮の木村教諭は、最優秀の感想を聞かれ「結婚式以来のうれしさです」と答え、観客の笑いを誘った。
OBらも加わって、愛唱歌「狩人アレン」が合同演奏され、重厚なハーモニーが大ホールに響き渡った。多くの先輩たちが流した「悔し涙」が、大きな喜びに変わった、かけがえのない時間だった。

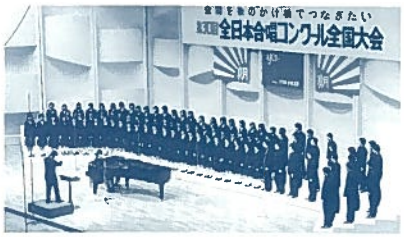
悲願かなう　坂出を破り　初の全日本全国大会に

全日本全国大会を決めた審査表

喜びに沸くメンバー

東京でのNHK記念演奏会の翌日が、全日本の四国大会だった。新幹線と連絡船で深夜に高松に帰り、坂出市民ホールでの大会に臨んだ。全員がステージに立って、全国大会に行くことは、当時の音楽部にとっての悲願だった。
この年、部員は90人を超えていた。３年生も30人近くが残り、安定した合唱が出来るようになっていた。女子は、日本を代表するソプラノとなる佐竹由美（78年卒）さんを始め、強力な３年生がおり、アルトも充実していた。男子は、２年生の時に、パートリーダーを務めたメンバーもいて、豊富な人材でまとまっていた。
結果は、フルマークで文句なしの代表権獲得。審査発表の写真を撮って残すほどの記念すべき瞬間だったのだ。

全日本　全国大会初出場で　金賞



全日本全国大会初出場（東京・普門館）

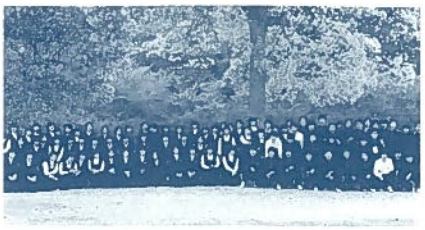
部長に渡されたバッジ

初出場の会場は、東京・杉並区の普門館だった。「なんて大きいホールなんだろう。でも、緊張とかはしていなくて、自然体でしたよね」ソプラノのパートリーダーだった、辻（旧姓佐竹）由美さんは、当時の感想を話してくれた。「なんか、何回も東京に行けて、楽しい感じでした」。初出場の気楽さなのか、NHK日本一の自信なのか、リラックスして本番に臨んだ。会場で見守る大勢のOBたちの方が、ドキドキしていたかもしれない。
全日本の当日、ステージに向かう樫村部長に、ハンカチに包んだ前年の部長のCMIバッジと校章が渡された。それは、部長の制服のポケットに入れられ、演奏が行われた。今から思えば「歴代の先輩の心も、ステージに立たせる」小さな儀式だったのかもしれない。全日本初出場は、一高音楽部の歴史の大きな区切りでもあったのだ。
初出場の審査結果は、当時、混声合唱で取ることが、非常に難しかった金賞！
「パートリーダーや企画運営の委員たちが自主的に動いて、後輩たちも、ついて来てくれ、最高の結果になったと思いますね」この年の部長樫村誠さんは言う。「歌では貢献できないんで、裏方をしっかりやりました。獣医学部を目指していて、担任から退部しろと言われたけど、最後までやって本当に良かったですね」砂川一浩さん（78年卒）は、当時を振り返る。

全国二冠の年の部員たち（昭和52年）

自主性のある３年生たちを中心に、自然体、無欲で臨んだ大舞台。それは、積年の無念を一気に晴らす、最高の結果をもたらした。

忍耐の時代　遠くなった全国大会（1978～1983）
重圧をはね返せず　無念の函館大会


多くの１年生が入部し大所帯に（昭和53年）

全日本函館大会

前年の大活躍で、1978年（昭和53年）多くの１年生が入部。音楽部は、100人を超す大所帯となった。それは、苦悩の始まりだった。３年生には「前年に匹敵するような成績を」と強いプレッシャーがのしかかっていたからだ。１年生が半数を占め、演奏レベルを上げることは、容易ではなかった。
「全日本はシード権で全国が決まっていたの

で、ほっとしていた気持ちと、好成績をというプレッシャーが混じっていました」と部長だった美濃孝行さん（79年卒）。
「大勢の１年生に、悔しさの連続で、やっとつかんだ栄光だったことが伝わらず、精神的に緊張感をつくれなかったのが、残念でした」と振り返ってくれた。全日本の結果は優良賞。大型の混声合唱団をまとめて行く難しさを、改めて感じさせる年になった。

全日本　５年連続で全国に行けず

1979年から83年まで５年間、全日本で全国の舞台を踏めなかった。1977年（昭和52年）高松市内に、新設の県立高校が開校し、有望な高校生が分散する、大きな環境の変化が起きた時期だった。1979年（昭和54年）に音楽科が新設され、音楽科と普通科部員の融合に苦しむ課題が生まれた時でもあった。
音楽部の環境変化に加え、頂点に立った指導者側のプレッシャーもあったようだ。
「合唱のことでアドバイスをくれた人が、日本一になった後、全く何も言ってくれなくて、不安と孤独を感じたかな」と、竹内元教諭は、苦しんだ時期を振り返ってくれた。

第５回定期演奏会（昭和56年）

忍耐の時代　部員たちの思い

1979年（昭和54年）の部長　松井隆樹さん（80年卒）は「男子３年生部員は、３人だけ。やんちゃな後輩を引っ張って行くのに苦労しました。必死で頑張ったけど、全日本四国大会は、松山東に負け、ものすごく泣きました」と話す。
現在の顧問　大山晃教諭（81年卒）も、この世代にあたる。「現役の時、結果を出せなかった悔しさが、一高に帰って、指導者としてリベンジしたい、大きな理由だったと思います」と振り返る。悔しさをバネに進んでゆく伝統は、いまも、顧問を通じて生き続けている。

大山教諭の同期たち（平成27年）

全日本四国大会（昭和56年）

全国大会に届かなかった期間でも、多くの部員が所属し、様々な活動が続いたのは、いつかリベンジをと言う、この世代の部員たちの、熱い思いが伝わっていったからだろう。それは、四国の代表校枠が増えた、1984年（昭和59年）以降の連続出場につながっていった。「先輩たちの栄光に続きたい」「悔しさを晴らしたい」と言う、この世代の心のバトンリレーは、一高音楽部・合唱部のかけがえのない遺産だろう。
全日本全国大会が遠くなった時代だが、NHKコンクールは、意地を見せている。1980年（昭和55年）83年（昭和58年）に、四国代表を勝ち取っている。この頃の部員を中心に、OB合唱団「アルス・ノバ」（指揮者　大山晃）が結成され、コンクールなどにも参加していた。
木村清繁（83年卒）さんは「現役時代一生懸命やったのに、思いが遂げられず、仲間と、まだ歌いたかったんでしょうね」と話してくれた。

OB合唱団アルス・ノバ（昭和61年）

全国大会　連続出場始まる（1984～1988）
全日本A・B部門に分かれる　６年ぶりの全国切符

1984年（昭和59年）全日本コンクールで大きな改革が行われた。小編成のA部門・大編成のB部門に分かれ、全国大会の代表権を争うことになったのだ。簡単に言うと２校が全国大会に進めるようになったのだ。少人数でまとまった演奏をする女声合唱に苦杯をなめてきた一高にとって、大舞台に返り咲く、またとない機会でもあった。それだけに、期待感が漂う中で、練習が続けられたようだ
ただ、全日本四国大会の前日ミーティングで、意外な事実がわかる。当時の規定ではA・B部門で１校ずつ選ぶだけではなく、小編成の２校が、大編成１位の評価を上回った場合は、小編成の２校が代表となり、その逆はない、大編成不利のシステムだったからだ。
「動揺したけど、部員にベストを尽くして、絶対、全国大会に行こうと話しました」当時の部長　日野真さん（85年卒）の記憶は鮮明だった。結果は、A部門が坂出、B部門では一高が代表権を獲得。６年振りの全日本全国大会への出場が決まった。
「僕たちもうれしかったんですが、会場に来ていたOBたちがすごく喜んで、涙を流していました。その時、先輩たちが味わってきた悔しさと、全国大会への熱い思いが初めてわかりました」「全国では優良賞でしたが、あれから連続出場が始まったことは、今でも誇りに思っています」と日野さんは、話を結んでくれた。

全国総合文化祭（昭和59年・岐阜）

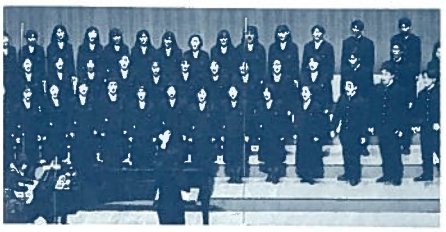
６年ぶりの全日本全国大会（大阪）

世代交代　大山教諭赴任　充実の時代へ（1989～1996）

1989年（平成元年）現顧問、大山晃教諭が赴任した。同時に、木村教諭が退職。翌年、竹内教諭も退職、大山教諭に指導のバトンが渡された。
この期間は、団塊世代の子供達が入学してくる時代で、音楽科にも才能がある生徒が多く在籍していた。好景気の時代で、子供を音楽の世界にという家庭が、多かったようだ。生徒数も１学年およそ600人で、13クラスあった。部員数も80人を超え、充実した活動が行なえる環境が整っていた時期でもあった。NHKコンクールでも、８年間で、３度全国大会に出場している。
なお、1996年（平成８年）20回定演の前から、音楽部の名称が、合唱部となった。

木村・竹内・大山教諭
（平成元年・福岡）

14年ぶり　全日本　全国大会で金賞獲得



14年ぶりの全日本金賞

1991年（平成３年）全日本の全国大会は、完成したばかりの岡山シンフォニーホールで開催された。音楽部の史上２度目14年ぶりの金賞は、充実したメンバーが無心で勝ち取った栄誉だったようだ。

当時の部長　松下京介さん（92年卒）は、審査発表を、副部長とともにステージで待っていた。「えっ？金賞？予想していなかったんで、びっくりでした」と当時を振り返る。３年の男子は、音楽科の６人と普通科のメンバーをあわせて10人もが残っていた。その上に、音楽科の女子も人材が揃っていたのだ。歴代の中でも、３年生部員が充実していた年と言える。

定演も華やかな雰囲気がただよった

「パート練習や全体練習でも、楽譜を読むのが早いんで、練習は、効率的だったと思いますね」松下さんの記憶だ。

金賞受賞でVサイン

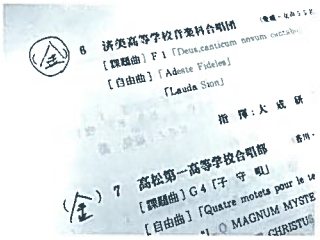
竹内先生が退職し、講師となり、全日本の指揮は、大山教諭のデビュー演奏だった。金賞を取った大山教諭、現役時代のリベンジを果たした大会でもあった。岡山から瀬戸大橋を通っての帰途、与島パーキングエリアでの写真には、Vサインの姿が残っている。「近い場所での全国大会だったので、与島でソフトクリームを食べて帰るくらいしか楽しみがなかったのが、残念！」と言う部員の声が聞けるほど、無心で余裕の大会だった。

全日本連続出場　途切れる　苦闘の時代（1997～2003）

一高の音楽部・合唱部は、様々なイベントに参加するなど、幅広い演奏活動が特徴になっている。歌を楽しむこと、聞く人に何かを伝えることを大切にしているからだろう。コンクール至上主義ではないクラブだが、この時代は、男子部員の減少や他校の台頭もあり、全国大会への道は、容易ではなくなっていった。

四国大会　審査発表で　無情のハプニング

全日本四国大会（平成９年・西条市）



無念の結果のプログラム

毎年、全国大会の舞台を踏んでいた音楽部だが、1997年（平成９年）は、無念の涙を飲む結果になってしまった。全日本全国大会への出場が、13年連続で途絶えたからだ。

愛媛県西条市での全日本四国大会での自由曲は、プーランク「クリスマスのための４つのモテット」。まずまずの演奏が出来て、審査の発表を待った。

「代表は、高松一高。あっ！間違いました」と考えられないアナウンサーのミスがあった。B部門代表を勝ち取ったのは、力をつけてきた愛媛の女声合唱の済美高校だったのだ。

当時の部長　淵田周平さん（98年卒）は「定演が終わってから、四国大会まで日程が、２週間以上空いて、部に勢いがなくなってきているのかなと感じました」「先輩たちに会わせる顔がなくて、頭が真っ白になりました」と、その時のことを教えてくれた。

アルトだった大西（旧姓松本）織江さん（98年卒）は、大山教諭が「全国大会に連れて行ってやれなくてすまん。曲も難しいのを選んで、選曲ミスだ」とあやまっていた姿を覚えている。

混声・女声の２部門で活動開始（2004～2006）

2004年（平成16年）一高の女声合唱が、全日本合唱コンクールに出場した。女声は小編成のA部門に、混声は大編成のB部門にエントリーしたのだ。この年から始まった２部門の活動は、大きく実を結ぶ。

女声合唱の誕生に秘話！　いきなり全国金賞

女声合唱の誕生、前年の四国大会がきっかけだった。2003年（平成15年）は、坂出がB部門大編成にエントリーし、一高は全国大会出場を阻まれたのだ。

当時の全日本四国大会で高校の部の参加は、A・B部門あわせ25団体以下で、代表枠が２つだった。「１団体増えると、代表枠が３つに増える可能性が高くなる」大山教諭は、それがわかっていたようだ。「女声合唱をするから有志は参加してくれ」と、顧問が声をかけ、大山マジックが静かに進行していった。普段の練習は混声が中心で、女声合唱は昼休みなどを使って、曲を仕上げていった。

金賞の賞状を囲む女声合唱メンバー

当時の副部長　眞田優美子さん（05年卒）は「混声も女声も全国大会が決まって、すごいなと思ったんですけど、なんで、３校も選ばれたのか？その時まで知りませんでした」と話す。

四国大会の講評で「一高の女声は、全国でも金賞が取れる」と審査員が批評し、女声メンバーは、自信を持って、全国大会に臨んだそうだ。結果は、女声が金賞、混声も銀賞。前年の涙をバネに実行された大山マジックが、大きく花が開いた。

副部長を囲む女子部員
（平成15年・東京）

「女声合唱は、四国大会の方が、ずっといい演奏だったかもしれません。全国に向けて、混声の練習しかしなかったから」と大山教諭。だが、一高の女声パワーは、合唱部に新たな可能性と活力を生み出したのだ。
この年以降、混声・女声の全日本へ全国大会へのダブル出場は、６回を数える。そして、翌2005年から、連続して女性部長が誕生。女子がクラブをけん引する時代になっていった。

新しい挑戦！　アンサンブルコンテスト　男声合唱（2007～2015）

少子化で１学年300人の時代が始まり、伝統を誇る合唱部は、特に男子部員の確保が難しくなっていった。そんな中、新しいチャレンジが始まった。
その一つが、アンサンブルコンテスト全国大会出場。2008年（平成20年）福島での第一回を皮切りに、その後、徐々に、好成績をあげてきている。
男子の力を付けるため、男声合唱のコンクール参加も2009年（平成21年）から始まっている。
こうした活動は、少人数でも一人一人が、しっかり声を出せる合唱につながり、2008年（平成20年）からは、４年連続で混声・女声の全国大会ダブル出場するなど、大きな成果につながっている。

アンサンブルコンテスト（平成19年・福島）

全日本高松大会　金賞　銀賞の快挙

2008年（平成20年）の全日本全国大会は高松開催だった。「混声合唱で出番を待っている時に、審査発表の結果が伝わって、大喜びしたら先生に騒ぐなって注意されたんです」「でも、先生も金賞だと知って、騒いでもいいわって言われました」当時の部長　坂井泰子さん（09年卒）は、混声・女声のダブルでの出場だからこその、エピソードを話してくれた。

全日本で金賞と銀賞を受賞（平成20年）

金賞受賞の号外

女声合唱は、５～６月に合宿をして、早めに曲を仕上げて行く。夏休みは、定演やコンクールに向けて、追い込みの練習があるので、ほとんど休みなしだったと言う。進学熱が高い中、最後までクラブをやり切って卒業したいと言う３年生の熱い思いは、近年になっても続いている。
地元の高松大会は、女声が金賞、混声が銀賞と好結果に沸いた。その一方で「混声で金賞を取りたかった」と悔しさを話す男子部員の声を聞き、坂井さんは、初めて男性パートのメンバーの気持ちを知ったそうだ。四国を代表する合唱の名門校の誇りは、今も確実に受け継がれている。

現役応援に向け　Cmi大同窓会　初開催　（2015）

2015年（平成27年）８月に、1971年～97年卒のOBたちが、一堂に会する大同窓会が開かれた。木村・竹内教諭の指導時代のメンバーが140人も集まり、再会や交流のなかった世代との出会いで、会場は盛り上がった。会では、一高音楽部の歴史をまとめたDVD「歌声の軌跡」が上映され、大きな拍手が起きた。
一高音楽部・合唱部は、各世代ごとに、OBの親睦活動が行われているものの、現役応援のための情報伝達や寄付については、十分とはいえない。会では、今後、OB名簿の整備や連絡体制の充実を図っていくことが、申し合わされた。
大同窓会を開いた世代以外にも、麦秋会や若いOBが、それぞれに親睦活動を行っている。それらが、ゆるやかな連帯をして、OBたちが、心の故郷「音楽部・合唱部」を応援できるようになることが、大きな課題となってる。

音楽部の大同窓会（平成27年・高松）

▶ミニコラム　Cmiバッジ誕生

一高音楽部のCMIバッジが生まれたのは、1972年（昭和47年）。部員が増え「クラブの心を一つにしよう」と、シンボルマークを作ろうとしたのだ。いくつかのデザインを持ち寄り、投票で決まった。それは、当時の副部長　池田玲子さんさんの父で中学校の美術教諭だった真三さんが描いたもの。真三さんは、合唱連盟のプログラムを手掛けていた縁で、娘さんがデザインをたのみ、応募していたのだ。
「こんなに長く使われ、愛されるとは思いませんでした」と大橋（旧姓池田）さん。「私たちの時代は、実績も何もなかったので、何か、誇りに思うものが欲しかったのかな？」と、振り返ってくれた。

▶ミニコラム　音楽部讃歌は　アメリカで作詞作曲

一高音楽部讃歌を創ったのは、現在、横浜国立大学教授で音楽教育を研究している小川（旧姓今村）昌文さん（77年卒）。高校２年の夏から１年間アメリカのニューヨーク州に留学していた。帰国後に音楽部に復帰し、1976年（昭和51年）のサマーコンサートの中、部長の指揮で初演された。
「現地の高校で、合唱やマーチングバンドに、熱心に取り組む姿を見て、作詞作曲しようと思った」と言う。のびやかだが、音楽に取り組む時に集中するアメリカの学生。その姿へのあこがれが「青い四国の高松に…」で始まる愛唱歌に込められている。一高音楽部讃歌は、アメリカの風土にある、アクティブな心を歌っているのかもしれない。

小川昌文さん
（旧姓今村）

■出演者・顧問紹介

指揮 大山　晃

高松第一高等学校を経て、東京学芸大学教育学部D類音楽科卒業。現在高松第一高等学校教諭。平成元年より合唱部顧問を務める。高松交響楽団、コレギウム・ムジクム高松各指揮者。香川県合唱連盟副理事長。
練習中は厳しいですが、頭脳レベルの高い１年生でも理解しづらいおやじギャグを時々炸裂させるのは、もちろん音楽も天才な大山先生!!
おちゃめさとかっこよさ、両方を兼ね備えた華麗な指揮をご覧あれ！

指揮 野口七海

普通科３年。合唱部部長。
可愛らしい見た目とは裏腹にとっても頼りになる部長です。身長は少し小さめ（？）ではありますが、心はいつもBigな癒し系女子です。そんな彼女の包容力に助けられた部員も後をたたないのです。今日はそんな野口部長の力強い指揮をお見逃しなく!!

ピアノ 中川美加

高松第一高等学校音楽科を経て、武蔵野音楽大学音楽学部器楽科卒業。現在、高松第一高等学校時間講師。
とても明るく優しい先生は生徒みんなが話しかけやすく、私たちもかわいい…と思ってしまうほどおちゃめな一面を持っています♡いつも私たちを明るく見守って下さる先生の魅力的なピアノには誰もが心奪われることでしょう。どうぞお楽しみに！

ピアノ 波多　翼

高松第一高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。現在、高松第一高等学校音楽科時間講師。この方以上にピアノの１音１音に気持ちをこめることができる人間はいない！と断言できる、愛らしいピアニストです♥
今回は中川先生とのピアノ連弾もご披露してくださいます！先生の演奏に乞うご期待★

ピアノ 岡橋直樹

高松第一高等学校音楽科を経て、国立音楽大学音楽教育学科卒業。現在、香川県立津田高等学校教諭。合唱部OBであり、これまで定期演奏会にはピアニストとして参加、松本零士アニメ合唱組曲三部作「宇宙戦艦ヤマト」「銀河鉄道999」「宇宙海賊キャプテン・ハーロック」を完全制覇した。今回も頼りにしています！

ピアノ 山本桃香

普通科１年、アルト。変人の多いアルトの中でとても貴重なしっかり者で、和が似合う大和撫子！やわらかい雰囲気はパートを和ませます。
しかし、ピアノを弾くと印象は一変!!その姿はとってもかっこよく、惚れ惚れさせられます。彼女の奏でる美しくやわらかい音色にも注目してお聴き下さい！

ピアノ 太田英里

普通科１年。可愛らしい笑顔が特徴的なふわふわ系ツインテールガール♡
そんな彼女のピアノは美しく可憐で聴く人を魅了する力があります。ぜひ、彼女の伴奏にも耳を傾けて聴いてみてください！

ソプラノ 谷　さおり

高松第一高等学校音楽科を経て、国立音楽大学声楽科卒業。現在、フリーで活躍中。
元合唱部顧問であり、定期演奏会では主にソプラノソリストとして透明感のある美しい歌声を披露してくれた。前回の「銀河鉄道999」でもソロを担当、一高の「999」には欠かせない存在である。

顧問 三好晶子

高松第一高等学校を経て、武蔵野音楽大学器楽科卒業。現在、高松第一高等学校教諭、音楽科主任。
いつも私たちのことを一身に考えてくれる先生は私たち合唱部員の癒しです♡普段は天使のように優しい雰囲気なのですが、一度ピアノを弾き始めると、凛とした姿に大人の女性の魅力を感じます。そして聴く人全てを魅了します！

顧問 十河純子

高松第一高等学校音楽科を経て、東京芸術大学音楽学部卒業。現在、高松第一高等学校教諭、平成７年より合唱部顧問を務める。
普段は明るく優しい先生で、生徒に熱心に指導してくださいます。しかし、いざ舞台に立つと、観客は美しい歌声に魅了されます！

■History　合唱部(音楽部)の歩み■

年度	定期演奏会	NHK全国学校音楽コンクール	全日本合唱コンクール	全国学校総合文化祭	備考
1952	音楽部創立				山崎教諭（1952～61） 木村教諭着任（1962） 竹内教諭着任（1970）
1955・60・64・72		香川１位			
1974		香川１位	四国大会金賞		第１回南九州演奏旅行
75		**全国大会出場**	四国大会金賞		
76	サマーコンサート	香川１位・四国大会出場	四国大会金賞		第２回南九州演奏旅行
77	1	**全国大会最優秀賞**	**全国大会金賞（東京）**	１回千葉	NHKホールにて最優秀校演奏会に出演
78	2	香川１位・四国大会出場	**全国大会優良賞（函館）**	２回兵庫	第３回南九州演奏旅行
79	3	香川１位・四国大会出場	四国大会金賞	３回大分	定演に岡本仁氏客演指揮
80	4	**全国大会出場**	四国大会金賞	４回石川	第４回南九州演奏旅行
81	5	四国大会出場	四国大会金賞	５回秋田	松野教諭着任
82	6	四国大会出場	四国大会金賞	６回栃木	
83	7	**全国大会出場**	四国大会金賞	７回山口	
84	8	**全国大会出場**	**全国大会優良賞（大阪）**	８回岐阜	全日本コンクールAB部門別に
85	9	**全国大会出場**	**全国大会銀賞（長野）**	９回岩手	
86	10	四国大会出場	**全国大会銅賞（松山）**	10回大阪	
87	11	四国大会出場	**全国大会銀賞（東京）**	11回愛知	置県100年記念行事参加
88	12	四国大会出場	**全国大会優良賞（新潟）**	12回熊本	
89	13	香川１位・四国大会出場	**全国大会銅賞（福岡）**	13回岡山	大山教諭着任　木村教諭退職
90	14	**全国大会銅賞**	**全国大会優良賞（札幌）**	14回山梨	竹内教諭退職
91	15	四国大会出場	**全国大会金賞（岡山）**	15回香川	花崎教諭着任　全国総文祭総合開会式参加
92	16	四国大会出場	**全国大会銅賞（仙台）**	16回沖縄	
93	17	**全国大会銅賞**	**全国大会銅賞（大阪）**	17回埼玉	東四国国体式典参加
94	18	香川県大会銀賞	**全国大会銅賞（金沢）**		秋山教諭着任　ねんりんピック香川式典参加
95	19	**全国大会日本放送協会会長賞**	**全国大会銅賞（高松）**	19回新潟	砂金教諭着任
96	20	四国大会銅賞	**全国大会銅賞（京都）**		国民文化祭とやま合唱の日参加
97	21	四国大会銀賞	四国大会金賞	21回京都	国民文化祭かがわ総合開会式参加　花崎教諭離任
98	22	**全国大会奨励賞**	**全国大会銅賞（浜松）**		四国98総体総合開会式参加
99	23	四国大会銀賞	**全国大会銅賞（岡山）**	23回山形	中四国音研研究演奏参加
2000	24	**全国大会奨励賞**	四国大会金賞	24回静岡	
01	25	四国大会銀賞	**全国大会銅賞（名古屋）**		
02	26	四国大会銀賞	**全国大会銅賞（神戸）**	26回神奈川（高松北高と合同）	創部50周年記念演奏会
03	27	四国大会銅賞	四国大会金賞		
04	28	四国大会銀賞	**全国大会（東京）A部門金賞・B部門銀賞**	28回徳島	全国豊かな海作り大会総合開会式御前演奏
05	29	**全国大会優良賞**	四国大会 A部門金賞・B部門金賞	29回青森（高松北高と合同）	サンポートホール高松開館１周年記念オペラ出演
06	30	四国大会銀賞	A部門 四国大会金賞 **B部門 全国大会銅賞（大宮）**	30回京都	
07	31	四国大会銅賞	**全国大会（盛岡）A部門銅賞・B部門銅賞**	31回島根	第１回声楽アンサンブルコンテスト **全国大会出場（福島）**
08	32	四国大会銀賞	**全国大会（高松）A部門金賞・B部門銀賞**	32回群馬	第２回声楽アンサンブルコンテスト **全国大会銅賞**
09	33	四国大会銅賞	A部門男声 四国大会銀賞 **全国大会（金沢）** **A部門女声 銀賞・B部門混声 銅賞**	33回三重	サンポートホール高松開館５周年事業 「カルミナ・ブラーナ」出演 第３回声楽アンサンブルコンテスト **全国大会銅賞**
10	34	四国大会銅賞	A部門男声 四国大会金賞 **全国大会（神戸）** **A部門女声 銅賞・B部門混声 銅賞**	34回宮崎（高松東高と合同）	
11	35	四国大会出場	A部門男声 県大会銅賞 四国大会 A部門女声 金賞・B部門混声 金賞		
12	36	四国大会銅賞	A部門男声 四国大会銀賞 A部門女声 四国大会金賞 **全国大会（鹿児島）B部門混声 銅賞**	36回富山（高松北高と合同）	創部60周年記念演奏会
13	37	**全国大会優良賞**	A部門男声 四国大会銀賞 A部門女声 四国大会金賞 **全国大会（福山）B部門混声 銅賞**		全国音楽高校協議会全国大会にて演奏 松野教諭退職
14	38	四国大会銅賞	A部門男声 県大会銀賞 A部門女声 四国大会金賞 **全国大会（盛岡）B部門混声 銅賞**	38回茨城	
15	39	四国大会銅賞	A部門男声 県大会銀賞 **全国大会（大宮）** **A部門女声 銀賞・B部門混声 銅賞**	39回滋賀（高松北高と合同）	

2004年から規定変更により全日本合唱コンクールはAB２部門の出場が可能になりました。

Members

顧　問	大山　晃	部　長	野口　七海	パートリーダー	Soprano　藤村　花音
	三好　晶子	副部長	小原　由嗣		Alto　橋本　夏海
	十河　純子	定演委員長	長尾　紗和		Tenor　佐野　祐希
					Bass　小原　由嗣

Soprano	3年	＊野口　七海（協　和）	中濱　夏海（協　和）	＊藤村　花音（高松一）
		吉川　紗良（国分寺）		
	2年	文谷和歌子（牟　礼）	＊長尾　紗和（高松一）	高尾夏津子（協　和）
		荒地　華子（観中部）	＊田村　優歩（屋　島）	＊藤岡明季乃（土　庄）
	1年	＊山田　彩夏（山　田）	長谷川　睦（木　太）	吉田　有沙（木　太）
		稲垣　優花（太　田）	古谷　眞実（桜　町）	山口　真菜（香　東）
		久保　綾乃（桜　町）	＊加藤　理子（桜　町）	＊河田　梨生（古高松）
		＊高崎　友里（紫　雲）	藤本　遥（香川一）	
Alto	3年	横山　菜摘（附高松）	吉田有美香（山　田）	＊橋本　夏海（香　南）
	2年	＊上原　萌（高松北）		
	1年	＊山岡　千夏（三　木）	吉田　那由（龍　雲）	十河ほのか（三　木）
		太田　英里（高松一）	山本　桃香（木　太）	＊岡　愛理（山　田）
		古市　雪乃（高松一）	＊安田　優紀（山　田）	＊四宮菜々子（香　東）
Tenor	3年	佐野　祐希（高松一）		
	2年	＊藤井　貴也（津　田）	宮川　翔伍（附高松）	宮地　皇河（屋　島）
		横井　龍哉（屋　島）		
	1年	＊宮井　翔大（協　和）		
Bass	3年	＊小原　由嗣（綾　南）		
	2年	長谷川　怜（屋　島）	＊鈴木　拓海（綾　南）	
	1年	小原　大和（綾　南）		

（　　）内は出身中学校　　＊印は定演委員

OB出演者

Soprano	有岡　京香	江村　美咲	小田麻友美	片桐　友里	鎌野あゆみ
	鎌野　あら	住岡　千香	高重　美帆	多田　遥香	谷　さおり
	デヴァーノ沙紀	童銅はるか	松崎絵梨子	村尾　柚葉	矢野　咲貴
	山下　莉乃				
Alto	穴吹　舞	石見　朱麗	奥田友里恵	唐渡　里奈	川田　麗美
	下久保有希	清水　麗華	白井　沙耶	曽根　友美	高橋　舞
	武田　歩	寺尾奈甫子	中村　綾花	浜田　美咲	廣瀬亜里紗
	辺見　玲奈	米谷　望	松岡　夏美	松岡　美帆	松下　夏苗
	美濃　二三				
Tenor	秋山　将摩	稲垣　諒	岡田　貴行	柏原　拓斗	原　聡希
	堀田　典明	三好　健登	鷲辺　航		
Bass	赤木　航平	鵜川　卓弥	大野　晃平	紅露　一輝	千崎　瑛祐
	松本　航輝	三田　魁斗	美濃　孝行	本澤　北斗	吉村　拓也